語り継ごう、明日へ。

歴史はいつも未来へのみちしるべです
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら
いつか来た道まで戻ってみましょう

危ないこと、いっぱいした。

いまの子供たちはこんな遊びはしないだろうな。危ないし、ほかに遊び場はたくさんあるからね。でも木材を海水に漬けておくなんて、どうしてだったんだろう——いろんなことを回想しています。魚釣りもしたし、次から次に飛び移って行ったし、棒で押して動かしてみたり。でも、危なかったよなあ。落ちてズボンがびしょ濡れになったり、おぼれかけたり。おじさんに、危ないから乗るなって何度怒鳴られたことか。この年になってわかったこと。水中貯木は、乾燥による割れや病害虫を防ぐため。木材はこれから製材所へ。乗れっていわれても、もういやだね。

ひと街しごと No.28

・時の街角／旧福士家住宅——2
・マチの博物館／薪ストーブ日和——3
・あるばむレトロポリス／野球場——4
・川筋を行く／豊平川㈠——5
・来た道・行く道／高橋馬具靴鞄店——6
・道具で道草30年——7
・時計のある風景——8

二〇〇九年 夏(年四回発行)
発行：㈳印刷紙工
札幌市中央区南十五条西十八丁目
TEL (〇一一) 五六一一三五九七
編集：ひと街しごと刊行会
札幌市中央区北一条西十七丁目 北海道不動産会館四階
㈲編集工房 海内 TEL (〇一一) 六一三一六六五一

時の街角

北海道開拓の村から

和洋の特異な〝合体〟明治の札幌にLDK。

旧福士家住宅――明治二十四年（一八九一）頃建築

昭和四十三年（一九六八）、北海道百年を記念して二百三十五人の開拓功労者が選ばれました。よく知られているのは松浦武四郎や榎本武揚、依田勉三らですが、造船や測量、気象観測の分野で功績のあった福士成豊もその一人です。

福士成豊は、同じく造船で開拓功労者となった松前生まれの続豊治の五男です。父の造船を手伝いながら函館の英国人経営の商会に住み込んで英語を勉強し、新島襄（同志社大学の創設者）のアメリカ密航を援助。また動物学者ブラキストンから測量や博物学を学び、自宅に設けた気候測量所で日本初の気象観測を行ったことでも知られています。

その後は開拓使や札幌県、道庁の技術官僚として多くの仕事を手がけており、札幌勤務は明治八年（一八七五）以降とされています。

福士家の記録には、明治十五年に北四条東一丁目に土地と建物を購入したとあるそうですから、北海道開拓の村が同家から移譲を受けた昭和四十八年まで、同じ場所に家があったということです。北四条東一丁目の木造平屋、一部二階建て。記憶している人はいるでしょうか。

一見して奇妙な印象を受けるのは、玄関の洋館部分と母屋の和風部分との合体でしょう。それもはじめから和洋折衷を企図したのではない、意識的にくっつけた感じです。

約八十坪とそれほど広くないこの洋館部は、官立札幌病院の一部だったという説があります。現在の市立札幌病院のことですが、同病院が北一条にあった明治時代の頃のものではないかというのです。はっきりしたことはわかりませんが、歴史を感じさせます。

母屋は明治二十四年（一八九一）頃の建築と推定されています。和室が四部屋のほか居間、台所、浴室、納戸、縁側のある大きなものです。特徴的なのが今日のLDKに当たる造り方を取り入れていること。食堂と居間を兼ねた二十畳ほどもある板敷きが、台所と直結。ストーブや囲炉裏もあって、楽しい一家だんらんを想像させます。

札幌に洋風の食材、洋食が普及するのは明治中期から。明治維新から洋風文化に接していた福士家は、それらを取り入れるのも早かったのでしょう。

正面の玄関部分が洋風、後ろの母屋が和風
横から、そして裏に回るとその合体がよくわかる

板敷きの明治風ＬＤＫ
伝統的な和室と廊下
寒そうだがこれが当時の最先端

※参考文献［北海道開拓の村・開村10周年記念誌］

マチの博物館

㈱北海道リンクアップ
薪ストーブ日和
札幌市中央区南一条西一十三丁目一一
朝日ビル一階　電話(〇一一)六一六一六一三三
http://www.h-linkup.co.jp

夏の間、薪ストーブ屋さんは何をしているのでしょう
実は春先からせっせと薪割り、乾燥作業を続け、
冬が来るまでに、顧客に必要な量を蓄えておくのです
自分でもこんな手間を惜しまない薪ストーブファンが急増とか！

赤々、ゆらゆら――心の中まで暖まる。

「これは何ですか」。二十四年前、それまでブリキ製の北海道の薪ストーブしか知らなかった唐牛宏社長（五〇）は、大型の鋳物でデザインに優れ、赤々と燃えている炎の見える輸入品に初めて出合った時、その家の主に思わずたずねたそうです。

当時はインテリアコーディネーターだったという唐牛社長。自分もすぐに同様のストーブを使いたいと家を新築し、勤め先にも薪ストーブを扱う部門を設けてもらって自ら担当になったとは、いかに強烈な印象だったかわかります。

その後も転職するなどして薪ストーブと係わり続け、さらに多くの人に魅力をわかってもらいたいと十二年前に設立した会社が北海道リンクアップ。社名の通り旭川、伊達、函館にもフレンドショップができて、輪が徐々に広がっています。

ショールーム「薪ストーブ日和」に展示してある製品はすべて北米・北欧の輸入品です。「歴史や品質、機能、市場規模の点で国産はかないません」（唐牛社長）。日本での主暖房としての地位は極めて低いのに魅力はどこに――唐牛社長は即座に「炎の癒し効果ですね」と。炎のゆらめきが身近にあれば、心の中まで暖まるということに尽きます。とはいえ暖房を薪ストーブにするには、気持ちのゆとりが必要なことも確か。火を毎日、自分でおこす手間を楽しめること。薪割りから始めたい人には、木を割って運ぶ体力も。

全国的には青森以南の需要が九五％を占めるそうですが、近年の特徴は、従来の四、五十代に加えて、インターネットや雑誌などで興味を持った三十代の人が見えるようになったこと。それに時代の後押しも。薪を燃やすことによるCO2の排出量は、樹木が成長するときに吸収した分とで相殺という考え方です。昨年は灯油の値上がりで薪ストーブにする人が増え、冬を前に薪が足りなくなるというハプニングが。

さて最後に、数ある薪ストーブの中から我が家に合ったものを選ぶポイントです。家の広さと性能――同じ量の薪を燃やしても、燃焼時間や暖かさが異なってくるそうですから、新築、リフォームを問わず唐牛社長の設計が欠かせません。まずはショールームで気軽におしゃべりでもどうぞ。

薪の炎が呼びさましてくれるもの。それは郷愁、憧れ…（撮影のために焚いていただきました）

デザインと機能に優れた北米・北欧の製品ずらり

薪ストーブの魅力を語る唐牛社長

薪を割る、お湯を沸かす
一つ一つの手間が楽しい
右は薪を積んであるショールーム入口

性能もデザインも、値段も様々。そして夢も

※撮影 /スタジオフェードイン

野球はやっぱり外の土の上で！
今年の春季全道高校野球大会のある日

あるばむ
レトロポリス

野球場

最近はさらに女性ファンが増えたようです。駒大苫小牧高の甲子園連覇、地元プロ球団の誕生、ドーム球場に気軽に足を運べることも無縁ではないでしょう。野球ファンと一緒に札幌の球場の変遷を。

球史伝えるメッカの変遷 広場で始まり、いまドーム。

上　いまはなき中島球場（80年4月）
下右　中島球場の入口（80年7月）
下左　円山球場でのプロ野球（63年7月）
どれも札幌の野球史の一ページ

※写真／左上三枚は札幌市写真ライブラリー提供　※参考文献／「中央区 歴史の散歩道」

現在、札幌市内にあるスタンドを備えた大きな野球場は、円山球場（中央区）、麻生球場（北区）、美香保球場（東区）、それに札幌ドーム（豊平区）の四カ所です。

このほかにもう一カ所、豊平館やコンサートホール・キタラのある都市公園として整備されている一帯に野球場のあったことを知るのは、もはやオールドファンでしょう。札幌の野球場の始まり、中島球場です。

同球場は、大正七年（一九一八）に開催された北海道博覧会会場の跡地を利用して造られたもの。当時は整地してバックネットを張っただけの簡易な球場でしたが、昭和二十四年（一九四九）に収容二万人の野球場となり、実業団野球や高校野球のメッカに。冬季間はスケート場に開放されていました。

その後、老朽化が進み、場外に飛び出した球が危険なことから、昭和五十五年に取り壊されました。この代替施設が麻生球場です。

円山球場の開場は昭和十年（一九三五）七月。陸上競技場などと共に総合運動場としての役割を担ってのオープンだっただけに、開場の二カ月後には早くも巨人（当時は大日本東京野球倶楽部）の来訪が。昭和十七年には初のプロ野球公式戦、巨人対大洋戦が行われています。

〝北の甲子園〟は円山
この夏の覇者はどこだろう

以後、球史に残る試合、エピソードの数々。北海道に巨人ファンを増やす原動力にも。また、中島球場がなくなってからは、高校野球大会のメイン会場として、球児たちの最大の目標でもあります。

そして札幌ドームのオープンが平成十三年（二〇〇一）。北海道日本ハムファイターズのフランチャイズ移転が同十六年。プロ野球は、円山球場からほぼ姿を消しました。

天気の影響を受けず、いつも快適な観戦のできるドーム球場ですが、たまには高校野球に行ってみると感じるものがあるでしょう。青空に抜ける歓声、目に染みる緑、土ぼこり、散水の爽快感――「野球はやっぱり外だなあ」という感慨は、男性だけのものではないはずです。

もはや全国に知られる札幌ドーム
〝日ハム〟ファンの熱気が充満している

豊平川 一

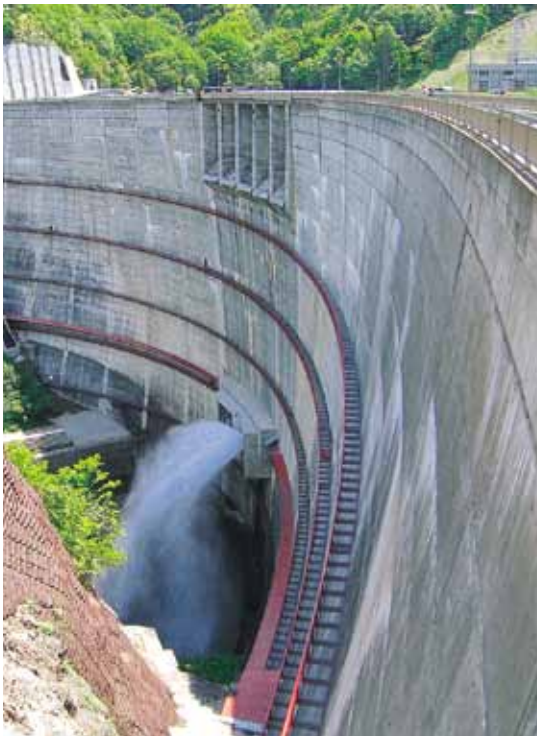
定山湖と豊平峡ダム

190万人都市の水がめ〝第二の源流〟眼下に。

数ある石狩川の支流の一つですが百九十万人都市を流れるだけあってその果たす役割も堂々たるもの――豊平川の流域紀行第一回は源流部に近い豊平峡ダムを訪ねて

川筋を行く

人と川の様々なかかわりをたずねて



高さ102.5mの豊平峡ダム。ここから放流される水が豊平川の第2の源流

まず豊平川の全体像を想像してみてください。どこからどこまでが流れとして浮かんできますか。職住としている地域にもよりますが、大方は真駒内から幌平橋を通って北十三条大橋あたりまでででしょうか。つまりは両岸が緑地として整備され、日常的に接している範囲ということになります。

しかしその源流はというと、南区のずっと山奥の千歳市との境あたり。東斜面が支笏湖に雪崩れる小漁山（一、二三五メートル）です。もちろん人はめったに入ることのないところですから、確かめようもありません。そこで誰にでも見ることのできる〝第二の源流〟が、豊平峡ダムのある定山湖です。

札幌市の給水量の九八％を賄っているだけあって、周囲の森林や峡谷の美しさはクリーンな環境そのもの。林野庁の「水源の森一〇〇選」や「ダム湖一〇〇選」にも選定されているほどです。

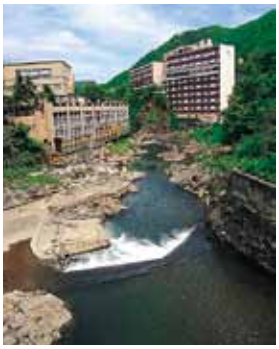
満々と水をたたえる定山湖
写真右手から札幌市街へと流れ出ていく

ダム自体は生活用水のほか、治水、発電も兼ねた多目的ダムです。札幌市は下流域に市街地・インフラが形成され、堤防を建設したり流れを深くしたりすることが困難なため、このダムで水量を調節しています。またここから約七キロのトンネルを経て豊平峡発電所に水を送り、発電を行っています。

ダムの高さは一〇二・五メートルあり、三十四、五階建てのビルに相当。貯水量が札幌ドーム三十一個分とは、ちょっと想像がつきません。その大きさを実感できるのは、堤頂から百メートル下のコンクリートの水路を覗き込んだとき。何と高いこと。そしてその水路の先に石がごろごろした渓流。これが豊平川の第二の源流ということになります。こんなに細いのなどと心配無用。背後の大きな水がめです。

豊平峡に行くには、国道二三〇号を定山渓から山間部に入り、途中で電気バスに乗り換えなければなりません。紅葉の名所として指折り。秋にぜひどうぞ。

月見橋の柵に豊平川の表示



定山渓温泉の中央部を抜ける豊平川

来た道、行く道。

様々な先達がいるからこそ
二十一世紀があるんだよ――
スローコミュニケーションを求めて。

本欄への自薦、他薦をお待ちしております。

様々な革製品がある店内。テント地のリュックなどにも隠れた人気が。

農耕や運搬に馬が重要な役割を果たしていた時代がありました。その労働の合間の楽しみとして生まれたばんえい競馬がありました。どちらとも切っても切れない関係にあった岩見沢市に開業して五十二年。馬で培った職人の技術を、現代に活かしていこうとがんばっている二代目を訪ねました。

本州でサラリーマンだった高橋陽次さん（四八）が、高齢の父、正雄さん（八三）を気遣って後を継いだのは七年前。正雄さんの指導を受けながらのスタートでしたが徐々に上達。様々な仕事をこなしながら時代の移り変わりも見てきました。

最も大きな出来事は、ばんえい競馬の廃止です。旭川や帯広とともにその存廃を巡って論議があったのはまだ記憶に新しいところですが、結局、昭和二十二年から続いた歴史に終止符の打たれたのが平成十八年のこと。「ばん馬がなくなって馬関係の仕事がなくなってしまいましたので、テント地や革製品がウエイトを占めるようになりました」（陽次さん）。

でも各地にある乗馬クラブからの注文があるのではと聞くと、即座に笑って答えてくれました。「うちの馬具は乗馬用ではなく、荷物を引く馬のものなんですよ」。なるほど岩見沢は空知の中心地。農産物がここへ集められる時に、馬の役割はどこよりも重要だったでしょう。その荷役に耐えられる装備もまた必需品でした。ばんえい競馬よりとうの先に、運搬役の馬は姿を消していたのです。

そしていま、陽次さんが見出している活路はペット用品やアウトドア用品です。首輪やリードなどペット用品には、革を加工する技術が活きます。こちらの首輪は革が円形に加工されているのが特徴で、こうすることで丈夫になり、さらに毛並みが寝ないので喜ばれていると

迫力のある木彫のばん馬（JR岩見沢駅構内）

バッグの修理も最近増えた注文の一つ

ガラ（柄）と呼ばれる
ばん馬の馬具の一つ
右上の写真のどこに？

高橋馬具靴鞄店
岩見沢市1条西3丁目1
TEL（0126）22－0875
URL http://www.takahashi-bagu.com/

ばん馬なき後、活路はペット、アウトドア用品に。

高橋陽次さん――高橋馬具靴鞄店・岩見沢市

か。

またテント地製品は、ひところほどの需要はなくなったものの、オリジナルのリュックサックが山菜採りなどに人気。変わったところではバイクのカバーや、バーベキューをする時のタープ（日除け）の注文を受けたことも。

リュックサックといえば、本州の大学から化石採集用にと注文があるとか。空知は三笠市などがアンモナイトや恐竜の化石で知られており、そちらへの行き帰りに寄っていくそうです。重い化石にはまさに最適でしょう。

さらに靴鞄店の看板も伊達ではありません。このリサイクル時代を迎えて、こちらに持ち込まれるのがカバンや革のコート、靴などの修理です。「普通の服直しでは歯が立たない」ものにも、馬具で培った技術で対応しています。

店内には様々な革製品がぶら下がり、昔のよろず屋のような雰囲気。眺めているだけで古き良き岩見沢が浮かんでくるようです。

いかにも〝よろず屋〟という店構え。奥に工房が

JR岩見沢駅そばの古風な看板が目印

道具で道草30年

亡くなった母が残したアルミ箔で覆われた鍋敷きは
筆者が中学の修学旅行の時に買ってきた木製の土産だった――
思いがけない母との再会に、しばし涙を禁じえなかった

母の残した鍋敷き三枚、思い出は巡る。

坂 一敬

私の亡くなった母は、物をとても大切にする人であった。

綺麗な包装紙やヒモ、箱なども投げないできちんととっておいていた。紙の手提げ袋も破れて使い物にならないもの以外は、全部丁寧にたたんで保管していた。これはうちの母に限らず、大正時代に生まれ、物が極端になかった戦中、そして物不足の戦後を生きたすべての日本人に共通のことかもしれない。

呉服屋さんの外商の人が家に出入りしていたから、全然ケチではなかったのだけれど（むしろとても気前のいい人だった）、鍋敷きなぞも、家を新築する際に残ったタイルや四角い木の板を代用していた。

唯一の鍋敷きらしい物といえば、私が中学の修学旅行の時に買ってきた糠平湖の彫りこみのある一枚である。クラフトによる町おこしをしている工芸館を訪れた際、四本足のついた鍋敷きを買い、母にあげた。母はとても喜んでくれて「やかんを置くのはもったいないねー」と言っていた。

アルミ箔で覆われた木製の鍋敷き。亡くなった母との再会

そんなことも私は忘れ、やがて母は亡くなった。

しばらくして台所の下の扉を開けた時、そこから例の鍋敷きが出てきた。それには丁寧にアルミフォイルが巻かれ、木地が汚れないようになっていた。きっと母は、何度もアルミを取り替えて息子からの鍋敷きを大切に使ったのだろう。その鍋敷きを手に取り、そう思いを巡らすと、なぜか涙がこみ上げて来た。涙は、あとからあとから出てきて止まらない。決して歳のせいで涙もろくなったわけではない。本当に止まらなかったのだ。

今、このアルミ箔を巻いた鍋敷きも、母が鍋敷きに代用して使っていた板も、我が家の客間を飾っている。人が何と思おうとも、これらの品々は私の宝物である。

私の家を訪れた人は、ガラクタばかりが所狭しと置いてあるので、奇異に思うらしい。でも、自分にとって価値があれば、それが世間的に見て無価値であろうとも少しもかまわないと思っている。税金を払っている自分の家だもの、自分の思いの品々で飾られていれば、そこは私の「癒し」の空間。

今の時代はものすごくストレスのたまる時代。家を出ればその中で十時間あまりをすごさなくてはならない。自宅に帰ってきても、家族や困ったときに助けてくれるわけでもない世間の目というものに配慮して気を遣わなくてはならない。自分の家でありながら自由にならない。ストレスはほとんど解消されない。

昔なら仕事で疲れても喫茶店で音楽を聞き、お茶を飲んでしばしの時を過ごせば、また明日への力がわいた良い時代もあったのだけれど、今は何をしても力はあまりわいてこない。楽しい我が家も遠い世界になって久しい。現代人は、朝から疲れている。それは通勤の人々の顔を見ればよくわかる。

私はといえば、休みの日に少し遅く起きて、朝食の後、昼間お風呂に入り、その後、我がガラクタの模様変えをしていると、結構楽しくて、それで一日が終わっても、それなりに癒されて、ある種の充実感が残る。「今日は良い一日だった」と。

そしていまだにマキストーブ。今年まで何とかつないできた。でも、寄る年波か、今年の冬はさすがに寒かった。母が残してくれた綿入りの丹前がなければ、寒くて眠れなかったかもしれない。

「亡き母の　縫って残せし丹前を
かぶりて眠る　二月（きさらぎ）の日々」

私に残してくれた丹前の枚数を数えながら、母に会いに行くまでは充分足りると思っている。「あたたかかった」とお礼を言わなければ。

五月の母の日、花屋の前をたまたま通ると、カーネーションがたくさん並んでいた。切り花を買おうかと思ったけれど、命なくすぐ枯れるそれよりもと考え、鉢植えにした。仏前に供えた後、庭に植えた。そして毎日じょうろで水をかけている。

「枯れてなを　庭を飾れる　紅き花　なつかしき　母の思い出　カーネーション」

何の変哲もないタイル、木片――
これらも鍋敷きの代用として母が使っていた

レトロスペース坂会館・館長（坂栄養食品・開発部長）

公園 時計のある風景

何かに追い立てられるように過ぎていく毎日。
いつもそこにある時計に、
足を止めることを忘れていませんか。

標高137メートル、眼下にビルの林立。

その街がどんなかたちをしているか知るには、そこのいちばん高い場所に上ってみるのがよいといいます。でも高い山には気軽には行けませんし、JRタワーやテレビ塔は有料です。ちょっと遊びがてら緑も楽しみながらというならここ、旭山記念公園（中央区）です。開園は札幌市創建百年の昭和四十五年。五年間の再整備工事が終わり、この春から新たな装いで訪れる人を迎え入れています。標高一三七・五メートル。中心部のビルの林立が、つんと澄まして涼しげな百九十万人都市を実感させてくれます。

Now Printing

●本づくりのパートナー
(社)印刷紙工

居間で本づくりセミナーを

自分史など本をつくりたいと考えている人のために、出前の本づくりセミナーを承ります。三人以上のお集まりで会場をご用意いただければ、日時をご相談の上、印刷担当者と編集者がお伺いしていろいろとアドバイスさせていただきます。ご自宅の居間でも結構ですよ。もちろん無料です。

記念誌は未来への道しるべ

企業や団体の十年を一区切りとする創立周年。二十周年、三十周年と歴史を重ねていく度にその歩みを記録しておかなければ資料が散逸、功績のあった人も物故していきます。未来への道しるべ、歴史はきちんとまとめておきたいものです。企画、編集、印刷、どの段階からでもご用命を承っております。

小紙を無料で差し上げています

慌しい時の流れに、ほっと一息つける話題を提供していきたいと願っている小紙。ご希望の方には無料で定期的にお送りしております。印刷紙工までお申し込みください。

質問箱

本づくりの「?」にお答えします。
お気軽に質問をお寄せください。

Q 来年、会社の創立30周年を迎えます。それを記念して社史か記念誌をつくってはと提案していますが、ホームページ上の沿革で十分という意見もあります。どちらがよいのか、本の編集の仕方も含めて教えてください。

会社の記念誌を作りたいが

A 現今の経済情勢もあって20周年とか30周年といった会社の創業周年に記念誌をつくろうという企業は少なくなっているように見受けられます。また自社のホームページ上で、簡単に歩みを年表形式にしているのも見かけます。

しかし、会社が今日あるのは、ここまでに費やされた経営努力、係わった人たちの労苦の結果であることは誰にも分かることです。そのプロセスを記録して、後の人たち、社員の道しるべにしようと考えるかどうかは、担当者、引いては経営者の見識一つです。

機械処理された情報がウエイトを占めるようになって、歴史的資料が処分され、また行方知れずになっている現状も知っておくべきです。功績のあった人たちが次第に高齢になり、あるいは物故していることも忘れられがちです。

このあたりの事情が理解され、本づくりにゴーサインが出たら、すぐにでも編集委員会を立ち上げます。そして発行期日などから、仕事の傍らの編集が無理とわかれば、外部スタッフに入ってもらって、手早く進めるのが賢明です。資料収集、関係者への取材などに協力態勢が必要です。